

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 年度

事業所番号	2775502699		
法人名	社会福祉法人 登守会		
事業所名	グループホーム穴太のせせらぎ		
所在地	大阪府八尾市宮町3-4-52		
自己評価作成日	平成23年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ開放的でストレスの少ない環境の下、利用者・職員が共に楽しみあいながら生活している。(各ユニット共通)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775502699&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 3月 8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域福祉に携わりたい、「小さな小川」のような流れから地域に貢献したいとの地元出身の理事長の思いから、自らの資源を活用して設立された2ユニットのグループホームで、居宅介護支援事業所と訪問介護事業所を併設しています。自社の広い敷地の奥に建てられたホームからは、公道に出るまでの通路は安全な散歩道となっており、利用者は自由に外気に触れることができます。『心寄り添う暮らしをめざします・心穏やかに生活できる環境を創造します・心安らぐ信頼のホームを実現します』の理念を念頭に、職員は3つのサービスの心を持って利用者に対するケアを心得ながら、日々支援に取り組んでいます。利用者一人ひとりについて、毎月個別の介護目標を定めてそれぞれに合った支援を心がけています。毎日の記録の中に「生活参加」の項目が設けてあり、細かく記録し共有しています。利用者の思いや希望をくみ取り、常に寄り添いながらそれぞれに合った支援を心がけ、実現するためにホームでは自らの機能を可能な限り地元還元し、また地元住民からも大きな協力を得ています。入居後には帰宅願望があった方もホームの生活に馴染み、新しく入居した方に「ここはいいところ」と声をかけ、仲間として迎える光景があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>【理念】①心寄り添う暮らしを目指す②心穏やかに生活できる環境を創造する③心安らぐ信頼のホームの実現</p> <p>常に利用者の地域生活維持の為に支援を目標とした理念を掲げ、会議や申し送り時等で理念に触れることで、施設理念に沿ったものであるか確認をしている。職員採用時にも理念を伝えている。</p>	<p>ホームでは3つの理念を作成しています。職員は理念と共に「親しみの心」「理解する心」「役に立ちたい心」の3つのサービスの心を持って利用者に対するケアの精神を培い、利用者の日々の生活を支えています。地元出身の理事長は地域に携わりたい、地域に貢献したいとの思いを理念に込めて実践しています。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>施設行事に近隣の方々を招待したり、屋外への散歩時等で積極的に声をかけ、馴染みの関係を構築している。近隣住民・民生委員の紹介、近隣ボランティアの受け入れ等、地域との関わりに努めている。</p>	<p>利用者は、日々の散歩時に近隣住民とあいさつを交わします。隣の高齢者専用マンションの入居者とは散歩時に会話を交わしたり、ホームに来る出張理美容を利用してもらったりと交流があります。近隣小学校の運動会を観に行き応援したり、施設長と一緒に参観日に出席したりすることもあります。中学生の職業体験学習を受け入れ、利用者との交流があります。民生委員に民謡のボランティアを紹介していただき、利用者は楽しんでます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	隣接の高齢者マンションの住民や地域住民の方々に対して、適宜、相談業務や支援を行っている。 希望する方には病状の相談や積極的に声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、民生委員・地域包括支援センター・家族代表者等の参加の元、年間6回の開催を実施している。 会議での意見は速やかに対応、参加者からのアドバイスにより取り組んだ内容もある。	運営推進会議は利用者家族・民生委員・地域包括支援センター職員の参加を得て、2カ月に1回開催しています。 会議ではホームの行事や活動報告、「ひやり・はっと」「事故報告」事例等を報告し、ホームでの利用者の生活について理解を得ています。民生委員からは、ボランティアの紹介等情報を得ています。参加の利用者家族から「緩和ケア」についての奨励本の提供を受けました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には市町村職員に相談・指導・助言を受けることで、日々のサービス向上にむけて取り組んでいる。	運営推進会議の議事録は毎回市の担当課へ持参しています。事故報告書提出時にも助言を受けます。生活支援を受けている利用者には、ケースワーカーの訪問があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の意味やなぜしてはいけないことなのかを説明し、拘束を行わない方針で対応している。 但し、玄関においては夜間と昼間でも利用者の見守りが困難と判断した際には施錠を行っている。</p>	<p>原則として身体拘束は行わない方針です。職員には「職員の行動規範」5か条を示し、利用者本位に立ったケアの大切さを伝えています。玄関の鍵は見守りが困難な場合を除いて、日中は開錠しています。利用者はホームの外壁に設置してある自動販売機で、ジュース等を購入することもあり、自由な暮らしの支援をしています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止についての知識を共有できるよう、研修・会議・申し送りの中で取り上げている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>近い親類がおられない利用者や将来的に活用が望ましいと考えられる利用者に関しては、担当の介護支援専門員や管理者から利用者や現在の身元引受人の方等に説明や支援を行う準備がある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>各ユニットの介護支援専門員が中心となり、適宜説明や聞き取りを行なっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設玄関内に意見箱と用紙を設置。利用者や家族が意見を表せるようにしている。また家族来訪時には出迎え・声掛けを行い、相談できる雰囲気作りに努めている。要望・不満があった時には会議や申し送り等で速やかに対応出来る様に協議している。</p>	<p>家族の来訪時に職員は声かけをして、利用者の近況を伝え、意見や要望を出してもらうように努めています。家族からの意見や要望を聞く機会を多くする工夫として、毎月の経費支払は直接ホームに持参していただくことにしています。また、利用者・家族へのアンケートを実施したり、施設玄関内に意見箱を設置したり、運営推進会議にも家族代表に参加してもらう等の意見・要望を出す機会を作っています。アンケートの結果や出された意見・要望については会議で検討したり、申し送り時に伝えたりする等、職員は意見を共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送り時に意見を聞く機会を設けたり、職員への無記名でのアンケートを配布する等の手段により広く意見を聞き取り、その内容を運営に反映している。	会議は「サービス担当者会議」・「リスクマネジメント会議」・「食材担当会議」・「排泄担当会議」・「入所判定会議」等の各会議を開催しており、職員はいずれかの会議に参加して意見や提案をしています。ホーム全体の会議は現在開催していませんが、管理者はすべての会議に参加し、職員の思いを受け留めています。また、日常的に職員は気軽に職場での気づきを表明することができ、管理者は実現に向けて努力する体制を取っています。更に、「入居者・家族への接遇についてのアンケート」を職員に実施し、「接遇自己診断表」や自己認識している接遇についてのコメントも提出しています。アンケートは集計後に公表し、更に「リスクマネジメント会議」で検討を行っています。アンケート実施後「2か月を経て自らの接遇についての振り返り」としてのコメントを職員は管理者に提出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容に対する個人の業績や勤務の功績度合いに応じて、別途手当を支給している。また、スキルアップに関する研修や試験等には勤務として参加させるなど、施設として可能な限りのバックアップをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、積極的に内外の研修参加の推進を行っており、また研修内容に関しては、参加できなかった職員も閲覧出来る様にファイリングをしている。ほかに参考文献等の定期購読なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内や他市の同業事業所と互いに連携をとったり、交流を持ったりすることで相互のサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申込者本人やその家族と何度も面談を行う機会を設けることで、利用者自身の思いや不安・要望等を知るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記を踏まえた上で、利用者と家族の関係や家族の思い・不安・要望等も把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要時には他の介護サービスの情報提供や援助等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が、これまでの人生の中で獲得した知識や技術を施設生活の中で出来る限り活かせるように支援し、利用者と職員が互いに協働しながら生活が出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会等で来訪されたり、必要時には電話などでも利用者の状況を説明したり、相談に応じながら利用者を共に支え、支援していく協力を要請し実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の親しい友人や知人の面会の促し、また馴染みの場所への外出支援も可能な限り行っている。	家族以外に親戚の方や住んでいた近所の友人の来訪を受け入れています。友人と共に外部での集会にも参加し、馴染みの関係を継続している方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士での外出や作業提供、食卓の座席や居室の配置等。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退去先への訪問や、家族への電話連絡による近況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での出来事や訴えの記録を徹底し、情報共有を図っている。認知症及び身体状況等により本人の意思等が確認できない方に対して、家族からそれまでの生活暦の情報を収集し、生活に活かせる様に努めている。	入居前には何度もホームを訪ねていただいたり、職員は利用しているデイサービスを訪ね、本人の様子を確認し、思いを聴き取ったりしています。入居後も散歩に同行した時等に、昔の思い出や今、してみたいこと等を聴く機会を作っています。センター方式のアセスメントシートを活用して、得た情報は記録して職員は共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者や家族と面談し、その情報を元にアセスメントシートを記入するだけでなく関係機関（かかりつけ医・利用していた介護サービス事業所等）からも情報提供を求めている。実際に入居されて暫くの間は、日々記入しているケース記録にそれらの情報を要約したものをファイリングしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後に家族の協力も仰ぎ、センター方式による情報収集を行っている。時間の経過と共に変化していく身体状況やニーズについても日々記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成者作成のケアプランだけでなく各利用者ごとに担当者を配置してプランを補完するような個別ケア計画を作成。毎月の評価と新たな計画を立案している。またケアプラン期間中に利用者の身体状況に変化が生じた場合、随時カンファレンスを行い、新たなプランを立案・実施している。モニタリングについても介護職員に作成してもらっている。</p>	<p>入居時及び入居後の利用者について、利用者や家族の意見・要望を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成し、家族の来訪時に説明しています。介護計画は6ヵ月毎に作成しています。モニタリングを行い、「実施状況」・「期待された効果」・「本人、家族の満足度」・「今後の方向性」等についてサービス担当者会議（カンファレンス）を実施しています。利用者毎に毎月介護計画に基づいた「個別ケア目標」を立て、日々の活動・支援経過記録に実施状況を記録しています。個別記録にはバイタル・服薬状況・受診状況・食事・口腔ケア・入浴・排泄・移動状況・表情異変・生活参加・睡眠状況・面会状況等の項目があり、職員は利用者一人ひとりの様子を共有することができます。新しく利用者が入った場合は「新入居者の概要情報」を日々のファイルに加えて、職員に周知を図っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成者以外の職員によりモニタリング作成を行ったり、利用者個別に作成した個別ケアはケアプランから逸脱したものではなく、変化していく利用者の状態に柔軟に対応出来る様にケアプランを補完し、より質の高いサービス提供を実践するために行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の住まう近隣の認知症を持つ高齢者の相談・情報提供のほか、家族より紹介されたボランティアの受け入れや外出・外泊時の準備（内服薬等）も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎回、消防訓練（通報・初期消火・避難）の際は、地域の消防署職員に来苑していただき実施している。また、民生委員等の紹介によるボランティアの受け入れ等も随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは利用者の状態に変化があれば24時間何時でも連絡がとれる体制を整えている。しかし、緊急性のある体調変化が起こった場合は、まず救急搬送の処置をとり、家族やかかりつけ医に連絡を取っている。	協力医療機関の内科医師により週1回の往診があります。所属の看護師も毎週訪問し、利用者の体調や服薬状況を確認しています。歯科医の往診、または歯科衛生士による口腔ケアの実施は週1回あり、眼科医は月に1回の往診があります。内科医とは24時間オンコール体制を取っています。処方する薬に関しては、利用者・家族の負担等に配慮したものを利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、施設に看護師は配置されていないものの、施設へ往診に来ている医療機関の看護師が毎日来訪し、利用者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中のお見舞いだけでなく医師と家族のムンテラにも積極的に参加し、情報提供や意見交換を行っている。また、それで知り得た情報を退院後の生活に備えて全職員へ報告し、退院直後よりスムーズに施設生活が営めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>施設での生活を継続していく上で医師より医療的な面での注意点、家族及び本人の意向を加味して支援方針を決定する。決定した支援方針を全職員に周知させ、統一されたケアの提供を行っている。</p> <p>支援としては本人・家族の意見を聞き取り、医師より重度・終末期の医療方針と考えられるリスクについて家族・施設に説明をいただく。その上で家族が施設での生活を希望し、施設側として受け入れが可能であると判断した場合は、継続して施設での生活が出来る様に支援している。</p>	<p>「終末期の看取りのケアに関する指針」を作成しています。協力医療機関とは夜間もオンコール体制をとっており、緊急時対応が可能です。入居後利用者の状態が重度化した場合や高齢になった場合には、家族と話し合い「看取りについてのケアの同意書」を交わします。今年1月に看取りの事例があります。職員には「看取りについての留意事項」を配布していますが、研修等は実施していない状況です。同意書を交わした家族から、「緩和ケア」に関する本を寄付してもらいました。</p>	<p>「看取りケアについての同意書」には第1項に『延命治療は行わない救急搬送はしない』ということが記載してあります。協力医療機関とのオンコール体制により医師の指示を仰ぐことはできますが、夜間に職員一人でサポートする場合などについて、夜勤者の心構えや、看取った後の職員のメンタルケアについて、近年身近に看取る体験が少ない若い職員のためにも、研修を実施してはいかがでしょうか。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防等の協力の下、年間2回の避難・消化訓練を実施している。また、非常用食品の準備、自治会や地域近隣住民への協力体制の要請などを実施している。	災害対策マニュアルを作成し、防火・避難訓練は年2回実施しています。うち1回は消防署の協力を得て実施しています。避難訓練は近隣住民にも声をかけをして協力を得ながら、利用者も参加し実施しています。災害時の非常用飲料水としてスポーツドリンクは用意していますが、非常用食料や飲料水・備品については準備できていない状況です。	災害時の非常用食料や飲料水、備品の準備が求められます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物や個人情報に関しては、全て施錠されたロッカー内で管理者により管理されている。また、利用者に対する言葉遣いや援助方法についても常に利用者の誇りや尊厳に配慮したものであるよう心がけている。	職員に対しての接遇に関するアンケートには「入居者及び家族に敬意を払った態度で接しているか」についての項目もあり、職員の行動規範に沿って、利用者に対して援助が必要なときもできるだけ本人の気持ちを大切に考え、利用者が自己決定しやすい言葉かけをするように努めています。職員は就職時に守秘義務に関する誓約書を提出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃職員は利用者一人ひとりに関わる中で、利用者個々の思いや希望・不安・悩み等の情報の把握に努めており、また個々が知り得た情報についてはケース記録や申し送り等を通じて、他職員も把握出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設行事や、事前に日程が決まっておくことが必要な事柄以外は、可能な限り利用者個々の体調や希望に沿って過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、移動美容室が来訪。隣の高齢者マンションの住人も利用しており、共に談笑の場となっている。他に家族や職員と外出し、本人と一緒に選んで衣類を購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好やアレルギーの有無、既往や疾患による制限等を把握した上で、それぞれに適した献立を管理栄養士が作成し、職員と利用者が共に調理をしている。また調理作業（下ごしらえ・味付け・配膳・下膳・食器洗い等）についても共に行っている。	毎日食材配達業者に依頼し、業者の管理栄養士の献立による「福祉施設用メニュー」食材の配達を受け、三食ともホームで調理しています。利用者は配達された食材をメニューに合わせて、仕訳するのを手伝います。また、調理の下ごしらえや盛り付け・下膳を職員と共に行います。食材によって、利用者のリクエストに合わせて二通りのメニューとして調理をすることもあります。利用者の嚥下状態にあわせて、食べやすい工夫をします。職員は利用者と同じものを共に食べながら、介助が必要な方にはさりげなくサポートを行い、会話をしながら和やかな雰囲気を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好を予め把握しており、栄養バランスにも配慮しながら飲料物や食材を提供。また毎日の食事量・水分量を個々に記録し、職員全員が摂取量を把握出来る様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・毎食後に口腔ケアを実施。また週1回は歯科医師・歯科衛生士による治療やケア・口腔指導も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日24時間の排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンの把握に努めている。またオムツ類に関しても、個々の排泄量や状況に応じたものを数種類に分けて使い分けている。	個別排泄確認表により、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。排泄担当者会議では夜間の尿漏れに対して、シーツの工夫や吸収力の高いパッドの使用等個別に検討し、家族も参加のサービス担当者会議に諮る等の工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と運動量の確保、食物繊維の摂取支援、腹部マッサージや温電法等を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも希望時には入浴して頂ける様に対応している。	入浴日の決まりはなく、いつでも希望時に入浴できます。職員は、利用者が入浴を楽しみにしていただけるように工夫を重ねています。概ね1週間に3回は入浴しています。希望すれば毎日の入浴も可能です。月1回程度「せせらぎ温泉」という名で、入浴剤を使用し温泉気分を味わってもらっています。浴室前に『大自然の露天湯気分を！！』とキャッチフレーズを記したポスターを掲示し、長野や青森・群馬などの有名温泉地を記しています。現在は、ハーブの香りシリーズで花の絵を掲示しています。利用者は全員入浴を楽しみにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	極力、睡眠導入剤や安定剤等は 使用せずに過ごしてもらえよう、 個々の利用者に適した対応策を 検討し、実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の内容や効能・副作用について、 職員全員がいつでも確認でき るようファイリングしている。ま た薬の内容等について週1回、医 師・薬剤師による説明を受けて いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	全体的に女性入居者が多い為、 家事作業については積極的に参 加され、各利用者が持てる力を 発揮している。その他、趣味の 編み物や卓球等、経験や知恵を 発揮できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に留意しながら、個別や複数での外出の機会を設けている。 また墓参りや知人・親類宅への訪問、集会への参加、好みの飲食店への外出等、個々の希望に応じて時には家族の支援を受けながら対応できるよう努めている。	ホームの前は、公道に出るまでに広い駐車場を囲んで、長い歩道があり、隣地の高齢者マンションの前の通路も含めて、安全な散歩道として利用できます。気候の良い日には、利用者が散歩や、職員と近くの店に買い物に出かけています。行事として初詣やお花見・外食にも行きます。家族と共に外食や、墓参りに出かけます。職員は利用者一人ひとりについて「外出援助記録」を作成しており、外出時の利用者に対する注意点を把握できるようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かった金銭については、管理者が個々の財布の中で管理しており、毎月の収支明細書により詳細を翌月に家族宅へ郵送。その上利用者及び家族に内容を説明し、了承を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人への電話の取次ぎや手紙の郵送など、利用者が孤独や不安を抱くことがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、匂いの調整。またリビングや居室には常に清潔感・季節感・安心感が味わえるような雰囲気作りを心がけている。	ゆったりとしたリビングには、テレビの前に寛げるソファを配置しています。広い食堂には、丸みのある四角い三台の食卓テーブルと、柔らかな曲線でデザインされたイスが配置されています。大きな窓で温かい陽射しも受け、1階は庭に面しており庭木を見渡せませす。食卓ではゲームをしたり、カレンダー作り等にも利用します。リビングの壁面にはフェルトで手作りしたカレンダーがあります。各居室入口には折り紙で手作りの内裏雛が貼ってあります。季節に合わせた作品を表示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置を換える等の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来る限り使い慣れた馴染みのある家具や調度品を持参してもらえるようお願いしている。	居室には備え付けのベッド以外は、利用者が自宅で使い慣れたタンスやお気に入りの物が持ち込まれています。仏壇を置かれている方もいます。利用者手作りの品が壁に飾ってあったり、家族の写真を飾ったり、それぞれ好みに合わせた居室になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力・身体状況に応じて、可能な限り自立した生活が送れる様に環境づくりに留意している。		